

第7章 久慈川の河川利用

(1) 河川に係る観光レクリエーション資源等の分布

久慈川の中上流域は、矢祭山などとともに奥久慈県立自然公園の中軸を成し、紅葉、温泉、景勝地などの観光レクリエーション資源等が多く分布している。

また、支川である里川流域も花園花貴県立自然公園、高鈴県立自然公園、太田県立自然公園が指定され、観光レクリエーション資源等が多く分布する。以下に久慈川流域における代表的な観光レクリエーション資源等について示す。

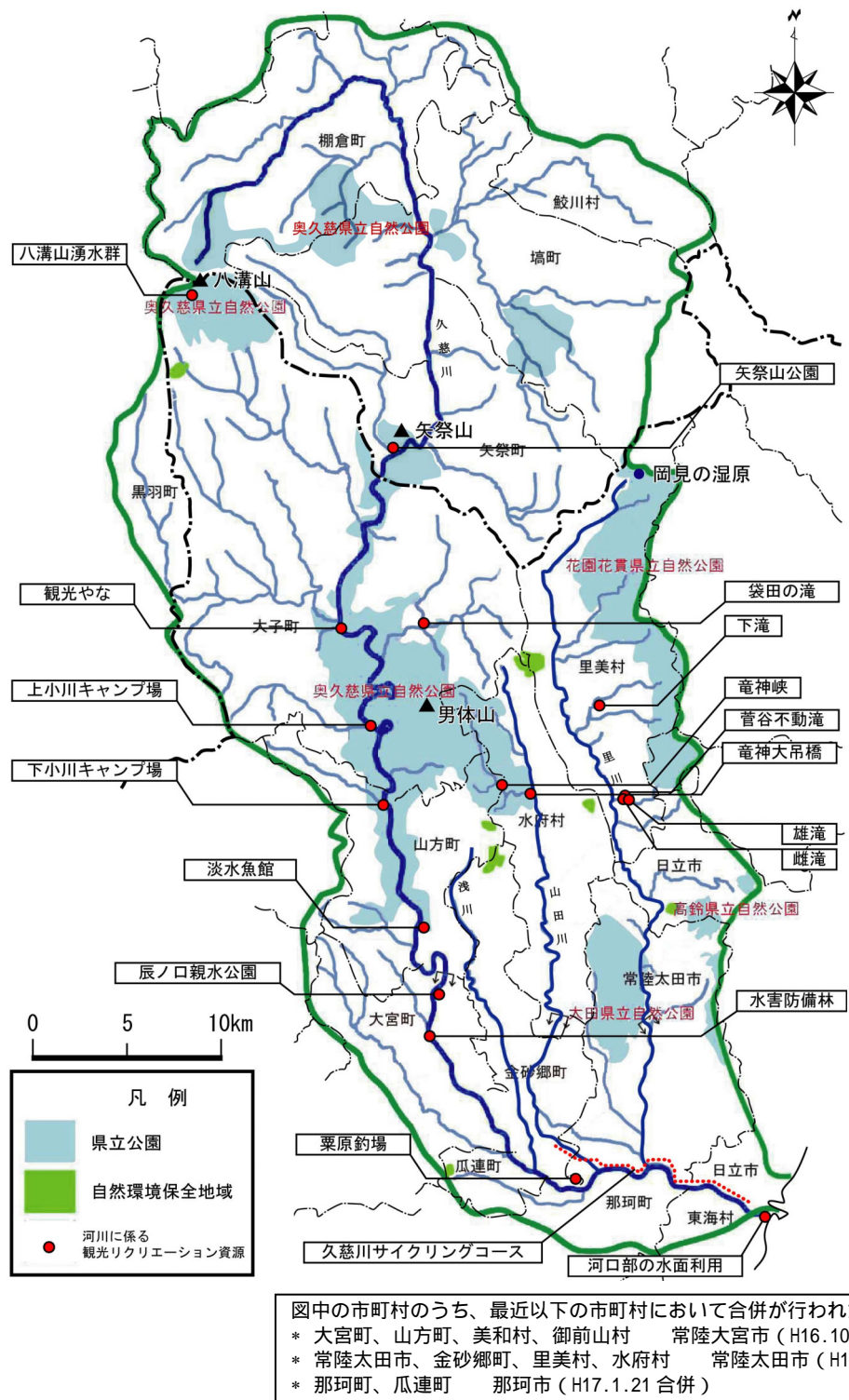


図 7-1 久慈川流域の河川に係る観光レクリエーション等資源の分布状況

八溝山湧水群（大子町）

山頂付近にはブナ、ミズナラなどの落葉広葉樹が多く、八溝山の水源となる湧水群を生んでいる。湧水群の中には、徳川光圀が賞味して命名したと伝えられる「金性水」など五つの湧水（「五水」と総称）があり、昭和60年に環境庁選定「日本名水百選」に選ばれている。



図 7-2 八溝五水(大子町)

矢祭山公園（矢祭町）

矢祭山付近は、公園となっており、久慈川が最も美しい渓谷美を發揮している。矢祭八景とよばれる筍子岩・無双滝・渡月橋・匣岩・竜神窟・猿の階山・日月岩・達磨岩の景観や矢祭三勝などの景勝地がある。また川辺の道路は茨城街道といい、数百本の山桜が植えられている。

袋田の滝（大子町）

四段になって落下するところから「四度の滝」とも言われる。華厳の滝、那智の滝とならび、日本三大瀑布のひとつである。

竜神大吊橋（常陸太田市）

長さ375m。竜神ダムをまたぐようにつけられた、歩行用としては日本一長い吊り橋。高さ100mの橋の上からは、遠く阿武隈・八溝山系の山並や美しい自然に囲まれた素朴な山田川上流の風景を見ることができる。



竜神大吊橋(常陸太田市)

竜神峡（常陸太田市）

竜神峡は、原生林の中を流れる山田川の支流・竜神川に沿って、十数kmにわたって断崖絶壁が続くV字型の渓谷である。四季折々の渓谷美は、茨城観光百選にも選ばれている。



竜神峡(常陸太田市)

菅谷不動尊の滝（常陸太田市）

支流里川の上流には、菅谷不動尊の滝や雌滝・雄滝をめぐるハイキングコースがあるほか、折橋地区の下滝、大小の滝や早瀬などが村内各所にあり、山と清流が織りなす自然美を見ることができる。



菅谷不動尊の滝(常陸太田市)

淡水魚館（常陸大宮市）

山方自然生態観察施設淡水魚館では、久慈川水系に棲む魚を中心に、身近な水生生物がみられる。溪流を表現した大型水槽、魚などに直接触れられるタッチ水槽などの他、入り口には昭和27年に天然記念物に指定された「オオサンショウウオ」を展示している。大型水槽には上流に棲むイワナ・ヤマメ・カジカ、中流のウグイ・オイカワ、下流のニゴイ、回遊魚のアユなどを生息地別に分けて展示している。釣りの対象魚として日本に持ち込まれ、固有の生態系を破壊することで問題になっているブラックバス・ブルーギルなどの外来魚、北海道のみに生息するイトウなどの魚も観察できる。

久慈川サイクリングコース（日立市～常陸太田市）

サイクリングロードは久慈川大橋のたもとを起点とし、本流と支流・山田川の堤防の上を進み、常陸太田市の山田川に架かる国道293号常井橋のふもとを終点とする。



サイクリングロード

（茨城県 H16 久慈川アドベンチャーキャンプより）

辰ノ口親水公園（常陸大宮市）

豊かな久慈川の流れに加え、辰ノ口堰とその周辺の自然と環境の特性を生かした総面積約34haの公園である。サケ展示館、桜つつみ、トリム広場、BMXコース、さらに高さ29mの展望台などがあり、家族そろって一日のんびり過ごすことのできる公園である。



辰ノ口親水公園（常陸大宮市）

栗原自然観察地（常陸太田市）

栗原地区の右岸は、湿地や樹林地、崖地などの様々な環境が限られた空間に集積し、久慈川全川の中でも貴重な自然環境が形成されている。多様な環境が残っているため、オオタカ、ハヤブサなどの鳥類をはじめ多くの野鳥が観察できる自然観察地となっている。

河口部の水面利用（日立市）

河口部では、ジェットスキー等の水面利用や釣りなどに利用されている。



河口部の水面利用（日立市）

(2) 地域の人々の利用

地域の人々が日常的に親しんでいる河川利用としては、アユ釣りをはじめ水際での散策や親水レクリエーション、また高水敷でのスポーツなどの利用である。中流域には、国土交通省と大宮町（現常陸大宮市）が整備した辰ノ口親水公園があり、桜づつみが整備され、清流や河原でのレクリエーション利用の人が多く、富岡橋上流右岸は、キャンプ、釣り等に利用されている。

豊かな自然環境のある栗原周辺地域付近は釣り、バードウォッチング等、自然観察を楽しむ人が多く見られる。

中下流域の高水敷が広い場所ではグラウンドが整備されスポーツや釣りの利用が盛んである。また、水面の広い河口部付近ではジェットスキーなどの水面利用が四季を通して行われている。

平成9年度の久慈川の河川空間利用状況では、年間約330万人が久慈川を訪れている。久慈川での利用形態は、散策が最も多く54%を占め、次いで釣り（24%）、水遊び（18%）が行われており、清流での自然とのふれあいや水遊びといった利用が多い。

このほかに、釣り船や漁船による漁業では主としてアユ、フナ、コイなどを対象として幸久橋より下流で行われている。

久慈川の高水敷の民有地は431haであり、その約80%が農耕地として利用されており、国有地は342.4haである。



河川敷のグラウンド（日立市）



高水敷でのキャンプ（常陸大宮市）

表 7-1 年間の河川空間利用状況

区分	項目	年間推計値 (千人)	割合(%)	利用状況の割合
利用形態	スポーツ	129	4	
	釣り	758	24	
	水遊び	558	18	
	散策等	1,696	54	
	合計	3,141	100	
利用場所	水面	401	12	
	水際	869	26	
	高水敷	1,662	50	
	堤防	425	13	
	合計	3,357	100	

(「平成9年度久慈川河川空間利用実態調査業務報告書 平成10年3月」より作成)

表 7-2 高水敷利用状況(指定区間外区間) (単位: ha)

	利 用 地				未利用地	合 計
	農耕地	運動場	その他	小計		
国 有 地	25.0	19.3	14.8	59.1	283.3	342.4
民 有 地	335.5	0	46.4	381.9	49.8	431.7
計	360.5	19.3	61.2	441.0	333.1	774.1